

令和4年度 東海国立大学機構 図書館プロジェクトチーム活動報告書

プロジェクトチーム名
蔵書構築プロジェクトチーム
サブチーム
1. シェアード・プリント 2. 著作権・デジタル化 3. 選書・電子書籍
メンバー
小島由香(主査) 1. シェアード・プリント: 村西明日香(チーフ) 池田美保子 揚野敏光 竹田彩乃 鰐部美香 桶本裕太 2. 著作権・デジタル化: 小島由香(チーフ) 中林有希 金田志保 3. 選書・電子書籍: 小島由香(チーフ) 植田まなみ 小嶋悦子 福岡千絵 菊池有里子
オブザーバー
佐藤久美子(名古屋大学附属図書館情報管理課長)
令和4年度の主な取組みと目標
<ul style="list-style-type: none">・除却方針、重複調整方法、保存基準の検討・自館資料のデジタル化計画の策定・電子リソースと冊子体の収書・所蔵方針の検討・利用者動向、利用統計データの分析
取り組みの概要
令和4年度は3つのサブチームにて活動を継続して行った。 各 ST の取り組み内容は次のとおり。 <【1】シェアード・プリント ST> 今年度の目標: ・海外の分野ごとの具体的な除籍基準の調査 主な活動内容: 『The Weeding Handbook: A Shelf-by-Shelf Guide, Second Edition』の主題ごとの除却基準が記載された章(8章)までを翻訳した。リアルタイムで共同編集が可能なオンラインのドキュメント作成サービスを使用し、1人が翻訳を作成、もう1人がその翻訳を確認してコメントを付与、最後に ST メンバー全員で読み合わせをして完成させた。 翻訳を通じて主題ごとの除籍基準について学ぶとともに、各図書館・室において除却を検討する際の参考資料として活用するため学内公開した。

<【2】著作権・デジタル化 ST>

今年度の目標:

- ・資料のデジタル化の優先順位の検討
- ・「個人向けデジタル化資料送信サービス」(略称:個人送信)の対象となる絶版等資料のデジタル化の検討

主な活動内容:

デジタル化の優先順位として、NDL が所蔵しない絶版等資料の優先順位が高くなると想定されることから、名古屋大学で所蔵する資料のうち、NDL で所蔵している資料(=デジタル化が不要な資料)がどれくらいあるか、教育学部と理学部の所蔵資料(1868-1945 の間に出版された日本語で書かれた図書が対象)をサンプルとして調査を行い、対象資料の概数把握や作業手順のマニュアル化を行った。

成果(学内公開):

1. 令和 4 年度 蔵書構築 PT 著作権・デジタル化 ST 報告書
2. 令和 4 年度蔵書構築 PT 著作権・デジタル化 ST 作業マニュアル案
3. NDL サンプル調査結果

<【3】選書・電子書籍 ST>

今年度の目標:

- ・利用統計の分析
- ・利用者動向の把握
- ・選書基準の検討

主な活動内容:

- 1)電子書籍に関する利用状況、利用者のニーズを把握することを目的に、主に購入希望対象者(学生・教職員)を対象とした簡単なアンケートを実施した。76 名の回答があり、集計結果を報告書にとりまとめた。
- 2)1)の購入希望者に対するアンケートの集計を補完するため、令和 3 年度の購入希望の実績を調査し、報告書にとりまとめた。
- 3)選書の観点から、和書の多く含まれる Maruzen eBook Library(MeL) の全体的な統計の分析を行った上で、シラバス指定に限定して MeL の利用統計と冊子体の利用状況の比較を行い、報告書にとりまとめた。

成果(学内公開):

1. 名古屋大学附属図書館で提供している「電子書籍」に関するアンケート(結果)
2. 令和 3 年度中央図書館図書購入希望の実績まとめ(学生希望・教員推薦)
3. MeL の利用統計について(冊子体との比較、シラバス指定資料を中心に)

今後の展望

<【1】シェアード・プリント ST>

- ・目標であった主題ごとの除籍基準に関する章の翻訳は完成したが、その他の章については未着手であるため、今後も必要に応じて作業を継続する。
- ・大学図書館の除却基準を中心にさらに事例を収集し、各図書館・室に適用しやすい形で情報として提供する。

<【2】著作権・デジタル化 ST>

- ・学内のデジタルアーカイブの構築に合わせて、デジタル化の基本的な方針を立てる、デジタル化の具体的な作業内容を検討する必要がある。
- ・NDL が所蔵しない絶版等資料のデジタル化について引き続き情報収集する。

<【3】選書・電子書籍 ST>

- ・今回の分析は対象データが少なかったこと、冊子・電子とで利用統計の質が異なること、資料の購入のタイミング、版の相違等による影響があるなど、全体的な傾向を把握できるところまでは至らなかった。より正確な利用統計分析を進める必要がある。
- ・統計の分析には、国際標準の仕様の理解が必要であり、統計作業には非常に時間がかかることから、より効率的な方法を検討する必要がある。